

中学校社会科における Google Earth を使用した地理教育

犬飼 未菜

中学校社会科地理的分野において、野外観察・調査は生徒の地理的見方・考え方を養う面で重要な役割を果たす。しかしながら、教科担任制における時間確保の困難さ、生徒の安全面の問題から、野外調査・観察の実施が阻まれているのが現状である。

このような問題を克服するため、教室にいながら対象地域の様子を見るためにこれまで地理写真・ビデオ教材を使用した授業があげられてきた。本研究ではそれらに続く第三のツールとして、Google Earth による教材化を試みた。Google Earth を教材として扱うにあたり、生徒自身が主体となって調査する前段階として Google Earth から地理的事象をしっかりととらえることができるかを検証する。

本研究の目的を達成するため、名古屋市立伊勢山中学校に実践協力を依頼した。授業は地理写真のみを使用したクラスと、Google Earth を使用したクラスの計 2 クラスで行い、その効果を学力 4 観点から比較検証した。なお、地理写真のみを使用したクラスに対しては、教育の不均等を防ぐため、後日 Google Earth を使用し授業の解説を行っている。

実践の結果から、空間が 360° 連続して見ることのできる Google Earth のストリートビューが、地図と実際の場所を結び付けるのに大変有効であるということがわかった。また、拡大・縮小が自由にでき、様々な情報を重ねることができる Google Earth を効果的に使用することで、地域の位置関係や地理的事象の広がり理解しやすいことがわかった。生徒の Google Earth に対する興味・関心も大きく高まったといえる。

しかしながら、情報量が多すぎてしまったり、ストリートビューにおいて方角がわかりづらくなってしまったりすると生徒を混乱させてしまうことにもつながる。ストリートビューで町探検をする場合には、方角を何度も確認したり、生徒のペースに合わせてゆっくりと進めていったりするなど工夫が必要である。Google Earth の教材化は、今後とも工夫が必要である。